

あけましておめでとうございます。昨年は、教育研究所の事業にご協力いただきありがとうございました。三学期を迎え、各園校とも締めくくりの時期になりました。多忙な時期を迎えますが、心にゆとりを持ち、広い視野で子どもたちを見取り、見守っていきましょう。今年もよろしくお願いいたします。

## 教師の心構え 教師の最も重要な仕事は授業です



- 責任感と緊張感をもって、一度きりの授業に臨む
- 子どもと教師で成り立つ授業を目指す
- 「学びのときめき」が授業の中にありますか
- 授業は仕掛けの芸術 常に授業力の向上に努める

- ・自分が「知っていること」「できること」と「指導すること」は別物です。子どもと教師で成り立つ授業にするためには、授業力が欠かせません。
- ・自分から進んで、先輩、同僚、書籍などから学び、実践することにより授業力を高めていきましょう。

### 授業力向上のために①「授業を見る」

- ・授業力を高めるには授業を多く見て具体的なイメージを得ることが大切です。
- ・視点や課題をしっかり持って参観しましょう。
- ・授業を見るときは、教師の動きを見るだけでなく、子どもの動きを丁寧に見て、効果と改善点を考えることが大切です。

### 授業力向上のために②「授業を見せる」

- ・公開研究会だけでなく、日常の授業を見せ合う機会を持ちましょう。
- ・他者から自分の授業を評価されることで授業力は向上します。（他者評価を拒否しない）
- ・公開授業後の自己省察を今後の授業に生かしましょう。（メタ認知の視点を忘れずに）
- ・子どもは授業の身近な評価者でもあります。子どもの授業中の様子や反応を見ながら、また、子どもの授業評価も参考に授業改善に努めましょう。

### 授業力向上のために③「教材研究を楽しむ」

- ・教師が面白いと感じて行う授業は、子どもにも面白さが伝わりやすくなります。好奇心をもって、ものを見ようとする、日々の暮らしの中にも授業のヒントは多々あります。
- ・書籍や研究冊子等を参考にし、よいところを取り入れて授業を行うことは授業力向上に役立ちます。
- ・子どもの予想される反応を踏まえて授業を構想しましょう。その際、授業中の発言、態度、表情、ノートやテストでの誤答の内容などの日々の学習状況を把握したうえで授業を考えることが大切です。
- ・深い教材理解と豊かな子ども理解を踏まえて、授業の中で子どもに「身に付けさせたい力」を明確にしましょう。

## ONE POINT

### 子どもの心に火をつけよう

「この授業でこんなことを学んだ」「授業中わくわくした」「あっという間に終わった」こんな感想は、教師にとってうれしいものです。

「凡庸な教師はただ伝える。よい教師は説明する。優れた教師はやって見せる。偉大な教師は子どもの心に火をつける。」（ウィリアム・アーサー・ワード）

研究授業参観や教材研究を楽しみ、授業中の学びや子どもの変容を喜んでる姿を子どもに見せましょう。

# まなび野洲チャレンジ！ 5



正しい答えの番号はどれでしょう。答えは最下段に載せています。

野洲市が1993年8月に姉妹都市提携した都市はどこですか？

- ①アメリカ合衆国 ミシガン州 クリントン・タウンシップ
- ②オーストラリア クイーンズランド州 ゴールドコースト
- ③ブラジル リオ・グランデ・ド・スル州 サンタ・マリア
- ④中華人民共和国 湖南省 長沙市



## おすすめの1冊

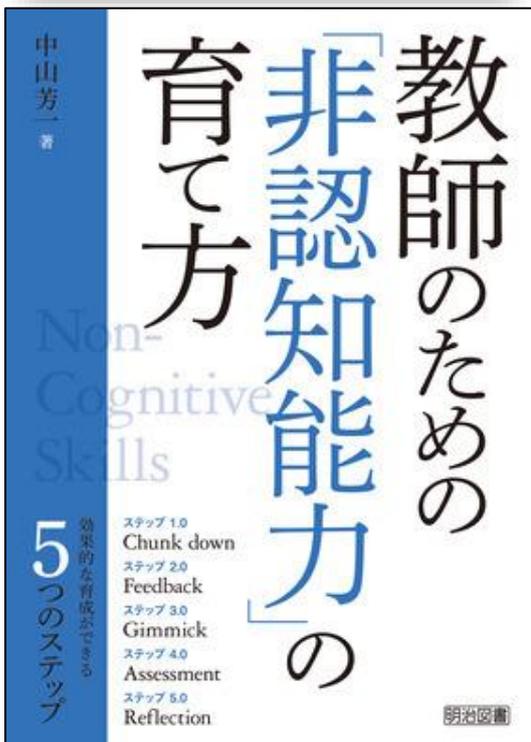
### 『教師のための「非認知能力」の育て方 効果的な育成ができる5つのステップ』

中山 芳一 著 出版社 明治図書

学校で育てたい「非認知能力」のすべてがわかる！

テストでは測れない「非認知能力」。その中から学校で活用できる「自分と向き合う力、自分を高める力、他者とつながる力」に着目し、非認知能力を認知能力と合わせて育成する方法を、5つのステップにわけて小・中学校・高等学校などの実践例とともに詳しく紹介しています。

- 第0章 学校で育てたい「非認知能力」とは
- 第1章 ステップ 1.0 Chunk down 抽象的な教育目標から具体的な行動指標へ
- 第2章 ステップ 2.0 Feedback 日常적인見取りとフィードバックで意識づけ
- 第3章 ステップ 3.0 Gimmick 意図的な仕掛けと感情への働きかけ
- 第4章 ステップ 4.0 Assessment 量的×質的な振り返りと定期的な自己評価
- 第5章 ステップ 5.0 Reflection 反省的实践者としての教師自身の省察



### 『思考理科—なぜ?からはじめようSDGs ①』

社会の視野を広げる理科』

藤嶋 昭 監修 田中 幸・結城千代子 著  
出版社 東京書籍

本書はこのシリーズの第1巻。シリーズ全体では、理科の学びを通して、環境、エネルギー、食糧、医療、人権などSDGsについての考えを深めることや、「社会」「算数」「芸術」「国語」の力を高めることを目指しています。

子どもが日常生活で発した疑問に答える形で構成されています。例えば、「日本が夏のときに冬の国があるのはなぜ？」や「江戸時代に作られたサクラ『ソメイヨシノ』が一斉に咲くのはどうして？」など環境や歴史などにも触れています。それぞれの疑問に関するSDGsの番号も掲載しています。

「社会」の他に、「算数」「芸術」「国語」もあります。

